

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会子宮がん部会 鳥取県健康対策協議会子宮がん対策専門委員会

- 日 時 令和3年2月14日（日） 午後2時～午後3時10分
- 場 所 テレビ会議 鳥取県健康会館（鳥取県医師会館） 鳥取市戎町
鳥取県中部医師会館 倉吉市旭田町
鳥取県西部医師会館 米子市久米町
- 出席者 23人
〈鳥取県健康会館（鳥取県医師会館）〉
皆川委員長、岩佐・岡田・瀬川・長井・松本・村江各委員
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：萬井課長、岡 係長、宮脇保健師
健対協事務局：谷口事務局長、葉狩
〈鳥取県中部医師会館〉明島・植木各委員
〈鳥取県西部医師会館〉
原田部会長、大石・大野原・小林・高橋・中曾・脇田各委員
健対協事務局：岩垣課長
オブザーバー：宇佐見米子市健康対策課主任

【概要】

- ・ 令和元年度は受診率24.9%、要精検率1.44%、精検受診率は85.0%。がん発見率0.02%、陽性反応適中度1.3%であった。要精検率は特に20～40歳代が高い。受診者数（率）はほぼ横ばい状態である。精検受診率は国の許容値70%以上は上回るものの、目標値90%以上には届いていない状況である。また、要精検率は許容値をわずかに超え、がん発見率、陽性反応適中度はいずれも国の許容値に届いていない状況である。
- ・ 子宮がん検診受診者32,318人中、体部がん検診対象者数は1,476人、一次検診会場での受診者は1,031人であった。一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者は163人、受診者の合計は1,194人、受診率は80.9%であった。

は80.9%であった。一次検診の結果、要精検となった者24人、要精検率2.33%、精密検査受診者数は19人で、精密検査受診率79.2%であった。精検の結果、子宮体部がんが3人発見され、がん発見率は0.29%であった。陽性反応適中度12.5%であった。子宮内膜増殖症は2件であった。

- ・ 令和元年度は子宮頸部癌6例で、ⅠA期2例、ⅠB期以上が4例であった。治療対象のCIN3またはAISは46例であった。CIN1、2または腺異形成78例であった。平成30年度に比べ、子宮頸部癌が1例増、CIN3またはAISは1例減少した。なお、ⅠB期以上4例の検診歴は、前年受診1例、3年以上前の受診1例であった。また、子宮体部癌は7例、子宮内膜増殖症3例であった。

挨拶（要旨）

〈原田部会長〉

休日のところ、お集まりいただき、ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染については、県内何とか少し収束して、大学病院の患者も1名か2名になっている状況であります。少し落ち着いて、ほっとしているところであるが、医療機関はもとより県初め行政の方々、そして保健所の皆様、大変、ご苦勞をなさったと思います。今後もワクチン接種等の対応について、行政も大変だと思うが、よろしくお願いします。

今日は、いくつか議題が挙がっており、委員の皆さまのご意見を伺いたいのでどうぞよろしくお願いします。

〈皆川委員長〉

本日は、東部会場から参加していますので、よろしくお願いします。

コロナのワクチン接種もいよいよ始まりますが、HPVのワクチンも来年度中に本格的に再開されればと希望しています。

鳥取県では米子市の単市検診、鳥取市では厚労科研の一部としてHPV検診がなされています。そろそろ、青木班の結果もオープンにされる時期だと思うので、全県下で統一した併用検診のあり方について、具体的な検討が必要と思っています。

年齢調整死亡率については、鳥取県は人口が少ないため、イベント数の影響で死亡率の変化が大きくなります。

特に子宮がんについては、大きな波のような状況はまた続いています。

報告事項

1. 令和元年度子宮がん検診実績報告及び令和2年度実績見込み・令和3年度計画について：

岡山健康政策課がん・生活習慣病対策室係長〔令和元年度実績最終報告〕

（1）令和元年度子宮頸部がん検診は対象者数（20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）129,896人のうち、受診者数32,318人、受診率24.9%で、平成30年度に比べ、受診率は0.1ポイント減であった。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が20歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数59,087人、受診者数25,836人、受診率43.7%であった。

一次検診の結果、要精検者数は466人、要精検率1.44%で平成30年度に比べ、要精検者数が83人、要精検率が0.25ポイントそれぞれ減少した。

また、一次検査の結果判定不能で、再検査の結果、判定不能だった者が14人であった。

そのうち、精検受診者数396人、精検受診率85.0%で平成30年度に比べ6.7ポイント増加した。

精検の結果、がん5人、がん発見率（がん／受診者数）は0.02%で、前年度比0.01ポイント減であった。

陽性反応適中度（がん／要精検者数）は1.3%であった。上皮内病変は127人（CIN3またはAIS 42人、CIN2 20人、CIN1 61人、CIN2か3区別不能4人）であった。

受診者数（率）はほぼ横ばい状態である。精検受診率は国の許容値70%以上は上回るものの、目標値90%以上には届いていない状況である。また、要精検率は許容値をわずかに超え、がん発見率、陽性反応適中度、いずれも国の許容値に届いていない状況である。

がん発見率の増加には反映されないものの、前がん病変であるCINの発見数は明らかに増加している。陽性反応適中度低下の主な原因は、HPV感染の推定に留まる細胞診ASC-USならびにCIN推定例の増加による要精検者数の大幅な増加（分母の増加）と考えられる。また、平成30年度から報告様式の変更に従い、上皮内がんを発見がんとして計上してきた平成29年度までと異なり、CIN3として集計することになったこと（分子の減少）も低下の一因と考えられる。

市町村別の要精検率、精検受診率に格差があり、要精検率1.4%以上のところが5市町村、精検受診率では70%以下のところが1町あった。

精密検査結果のうち、上皮内病変32.1%を占めており、若年者層から多く見つかった。

（2）子宮がん検診受診者32,318人中、体部がん検診対象者数は1,476人、一次検診会場での受診者は1,031人であった。一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者は163人、受診者の合計は1,194人、受診率は80.9%であった。

一次検診の結果、要精検となった者24人、要精検率2.33%、精密検査受診者数は19人で、精密検査受診率79.2%であった。精検の結果、子宮体部がんが3人発見され、がん発見率は0.29%であった。陽性反応適中度12.5%であった。子宮内膜増殖症は2件であった。

また医療機関での別途受診者から、子宮体部がんが3人、子宮内膜増殖症が1人発見されている。

〔令和2年度実績見込み及び令和3年度計画〕

令和2年度実績見込みは、対象者数129,896人、受診者数は31,924人、受診率24.6%である。また、令和3年度は、受診者数約32,811人を予定している。

〈地域保健・健康増進事業報告より〉 厚生労働省ホームページで公開

参考資料として、国が示した「がん検診のためのチェックリスト」を用いて本県の精度管理に活用することとし、健対協で把握できないチェック項目リストのうち国がホームページで公開している項目（検診受診歴〈初回・非初回〉別の要精検率等、偶発症の有無、精検未把握率）について、平成29年度実績報告が提出された。

要精検者のうち、精検受診の有無がわからない者及び（精検を受診したとしても）精検結果が正確に把握できていない者を示す精検未把握率について、国の許容値は10%以下である。鳥取県は平成29年度8.0%で許容範囲内であった。未把握率50%以上のところが2町あり、県健康政策課より該当の町には聞き取りを行う予定である。

〈参考 令和元年度妊婦健康診査における子宮がん検診受診状況〉

令和元年度実績は、妊婦健康診査受診者4,059人中、子宮頸部がん検診受診者数3,959人、受診率97.5%で、要精検者数89人、要精検率2.2%、精検受診者数78人、精検受診率87.6%で精検結果はがんが1人、25～29歳で発見されている。

2. 令和元年度子宮がん検診発見がん患者確定調査結果について：大石委員

令和元年度は子宮頸部癌6例で、I A期2例、I B期以上が4例であった。治療対象のCIN3またはAISは46例であった。CIN1、2または腺異形成78例であった。平成30年度に比べ、子宮頸部癌が1例増、CIN3またはAISは1例減少した。なお、I B期以上4例の検診歴は、前年受診1例、3年以上前の受診1例であった。また、子宮体部癌は7例、子宮内膜増殖症3例であった。

3. その他

1. HPV併用検査の実施状況について：

宮脇県健康政策課がん・生活習慣病対策室保健師報告

○鳥取市、米子市、日野町、南部町HPV併用検

査の令和元年度実施状況について報告された。これまでは鳥取市、米子市のみ報告していたが、日野町においても平成25年度から単独実施しており、南部町においては平成30年度より実施されている。

	対象者	HPV検査 受検者数	HPV陽性	要精検（細胞診）		AIS、CIN、 腺異形成
				HPV（＋）	HPV（－）	
鳥取市	2,053人	560人（27.3%）	68人（12.1%）	17人（3.0%）	2人（0.4%）	19人
米子市	3,793人	1,522人（40.1%）	149人（9.8%）	29人（1.9%）	19人（1.3%）	48人
日野町	92人	11人（12.0%）	0人（0%）	0人（0%）	0人（0%）	0人
南部町	1,496人	212人（14.1%）	22人（10.4%）	3人（1.4%）	2人（0.9%）	5人
計	7,434人	2,305人（31.0%）	239人（10.4%）	49人（2.1%）	23人（1.0%）	72人

米子市は対象年齢を変更し市単独事業として実施。

委員から、全県でHPV併用検査実施ということにはならないのかという質問があった。子宮がん検診のガイドラインの改定版が出されたが、国の「がん検診あり方検討会」において検討が重ねられ、指針が出されるので、全県で導入ということは今の時点では県としても考えていないということだった。

2. 子宮がん検診のためのチェックリスト（検診実施機関用）及び仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目の一部改正について：

岡山県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長説明

厚生労働省から検診実施機関用のチェックリストについて、一部改正の事前周知があり、改正時期は令和3年3月である。

○細胞診採取について、注1として「一般社団法人日本婦人科がん検診学会 子宮頸部細胞採取の手引き」参照。

○陰性例について10%以上の再スクリーニング実施と再スクリーニング施行率の報告が共に必要であることを明確にした。

3. 令和元年75歳未満がん年齢調整死亡率：

岡山県健康政策課がん・生活習慣病対策室長報告

国立がん研究センターが令和元年の75歳未満がん年齢調整死亡率を公表した。

鳥取県の男女計の死亡率は、令和元年は79.7（昨年72.2）で、昨年の全国30位からワースト3位。

女性の死亡率は61.3（昨年51.7）で、昨年の全国13位からワースト4位。

子宮がんの死亡率6.2（42位）で、昨年は全国46位であった。

4. 令和3年度がん関係予算：

小林県健康政策課がん・生活習慣病対策室長説明

主な変更点は、「患者支援、その他がん対策」の患者支援の一つとして、抗がん剤治療に伴う副作用対策として頭皮冷却装置を導入するための経費を助成する。

また、がんの罹患率、それから死亡率がどうしても鳥取県ワースト3にまた下がってしまったということで、その分析を行うために、関連データの解析などについて、国保連合会と一緒にデータ分析を行うとともに、鳥取大学医学部の尾崎先生のご協力をいただき、症例対象研究ということ

で、健康な方とがんにかかった方の、比較を行い、分析調査、疫学調査を行うこととしている。

5. その他

子宮頸がんの検診に係る精密検査の結果が未確定で経過観察中の者について、次回も一次検診の対象とすべきかどうかについて問題提起があった。

また、精密検査医療機関担当医より以下の質問が寄せられたという話題が提供された。

精密検査において、細胞診検査結果のみで他医療機関に紹介される例がある。受診者が精密検査紹介状を持って他医療機関に受診されれば、紹介先の医療機関は結果を記載して市町村に報告することができるが、精密検査が途中の段階で市町村に提出すると、最終結果が集計できないこととなるという内容である。上記については、皆川委員長と大石委員で状況を把握していただき、今後、検討することとなった。

子宮がん検診従事者講習会及び症例検討会

日 時 令和3年2月14日（日）
午後4時～午後5時40分

場 所 ①メイン会場／鳥取県西部医師会館
米子市久米町136
サブ会場／Webにより映像配信

②鳥取県健康会館（鳥取県医師会館）
鳥取市戎町317

③鳥取県中部医師会館 倉吉市旭田町18

鳥取県西部医師会館をメイン会場とし、サブ会場の鳥取県健康会館、鳥取県中部医師会館をWeb「ZOOM」を使って同時開催をした。

出席者 65名

（医師：52名、検査技師：12名、保健師・看護師：1名）

（鳥取県西部医師会館：34名、鳥取県医

師会館：27名、鳥取県中部医師会館4名）

岡田克夫先生の司会により進行。

講 演

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会子宮がん部会長 原田 省先生の座長により、鳥取大学医学部附属病院女性診療科講師 大石徹郎先生による「子宮頸がん検診Back to Basics」についての講演があった。

症例提示

鳥取大学医学部附属病院女性診療科講師 佐藤慎也先生の進行により、症例5例について症例検討が行われた。